

平成17年度 後期

教育発達科学研究科 高等教育マネジメント分野

高等教育内容論 - 学習支援

(水曜7限 担当：近田政博)

シラバス

クラス内の方針

* 授業の基本方針

- ・受講生のみなさんが知的刺激を得られるような努力をします。
- ・みなさんの職業経験を授業の中に活かせるような工夫をします。
- ・みなさんが授業で得た知見を仕事に活かせるよう、授業内容・方法を工夫します。
- ・明確な学習目標を設定し、これに達成するための課題を用意します。
- ・教員と受講生、および受講生間のコミュニケーションを促進します。
- ・小さな課題を積み重ねることによって、問題意識を深められるような工夫をします。
- ・受講者の多様性に配慮します。
- ・努力が正当に評価されるように、公正な成績評価を行います。

* クラスの環境

夜遅いので、飲み物、軽食を持ち込んでもけっこうです。リラックスしてやりましょう。寒すぎたり暑すぎたりしたとき、教員の声が聞き取れないとき、他の受講者によって授業が妨げられたと感じたとき、その他教室の環境に不快を感じたときは、遠慮なく教員に言ってください。できる限りの快適な授業環境づくりを心がけます。

* 授業の開始・終了時刻、休講について

授業は 20:00～21:30 まで行います。特別な理由がない限り延長はしません。
やむを得ない理由によって休講、時間変更するときは、あらかじめ連絡します。

* 遅刻・欠席について

遅刻や欠席をする場合は、できるだけ事前にメール・電話などで連絡下さい。フォローアップのための支援をします。

* 試験、追試験、再試験について

この授業は試験、追試験・再試験を行いません。授業中の課題提出で総合評価します。

* この授業に関する問い合わせ先

近田政博（高等教育研究センター助教授） chikada@cshe.nagoya-u.ac.jp 内線 5692

基本情報

科目区分 高等教育マネジメント分野
授業タイトル 高等教育内容論 - 学習支援
開講時期 後期
曜日 水 曜日
時限 7限(午後8時より)
単位数 2
受講対象 教育発達科学研究科院生(社会人大学院生)
教室 高等教育研究センター会議室(文系総合館5階)
担当教師 近田 政博
所属 高等教育研究センター
他教師
電話 052-789-5692
電子メール chikada@cshe.nagoya-u.ac.jp
ホームページ <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/gs/>
オフィスアワー
(時間と場所) 随時(電話、メールで確認すること)
TA なし

授業概要

この授業は、現代の大学生の学習状況・意識、教職員に対する研修活動、学生に対する学習支援(特に初年次教育)、自大学の教育・学習ガイドラインの策定、という4つのパートから構成されています。

各パートは、リーディングスをもとにした基本レクチャー 自分の大学についての調査・発表 自分の大学の改善策について意見交換、というサイクルになっています。パート4ではメルボルン大学の『教育・学習を導く9つの指針』を参考にしながら、自分の大学の教育・学習ガイドラインを策定し、発表していただきます。

授業の目標

この授業では、あなたが属する大学における学習支援の特徴を理解し、改善すべき点を指摘できるようになることを目指しています。大学の第一の主人公は学生です。学生に対する学習支援は、言うまでもなく大学の教職員にとって最も重要な仕事の一つです。前期の授業設計論は教室内のティーチングを扱いましたが、後期の学習支援論は教室の外側からいかにしてティーチングとラーニングを支援するかというテーマです。

この授業がベンチマーク(比較基準)とするのは、メルボルン大学が2002年に策定した『教育・学習を導く9つの指針』です。この構成・中身を参考にしながら、自分の大学にとって必要な学習支援のあり方を提言できるようになることが目標です。この授業を通して、受講生のみならず次のような知識・スキルを獲得することを支援します。

- ・現代の大学生の学習状況や学習ニーズを理解する
- ・授業評価の適切なあり方について説明することができる

- ・教職員に対する研修活動（FD・SD）の本質を理解し、日本の大学の問題点を指摘できる
- ・初年次教育がなぜ重要なのかを理解し、具体的な施策を提言できる
- ・自大学の教育・学習支援の方針を提言できる

教科書

最初の授業で予習教材を配布します。授業までに指定された教材を読んで、コメントを「ゴーイングシラバス」に書き込んでください。その他、重要な資料は随時配布します。

参考資料・文献

別紙参照。

成績評価の方法

パートごとに、予習教材についてのコメント、自大学の状況について調査・発表、改善案の提示と意見交換があります。これらのプロセスと成果を評価します。

予習教材についてのコメント

あなた自身の意見とそう考える根拠を述べて下さい。

自大学の状況について調査・発表

調査した方法、結果、あなた自身の意見を明記して下さい。

改善案の提示と意見交換

改善すべき点、改善の方法、そう考える根拠を明記して下さい。

各パートは次のA（2点）とB（2点）を合計し、4点満点です。4パートありますから16点満点になります。

A：出席状況と予習課題コメント

2点：出席状況が良好で、コメントに自分の意見が明瞭に述べられている

1点：出席状況が不十分、もしくはコメントに自分の意見が明確に述べられていない

0点：出席状況が悪い、もしくはコメント未提出

B：調査・発表、改善案の提示、意見交換

2点：発表内容が優れており、他者の発表に適切なコメントができる

1点：発表内容が不十分、もしくは他者の発表に対するコメントが不十分

0点：発表内容に大きな問題がある、もしくは他者の発表に対するコメントがない

成績評定は、14～16点：優、12～13点：良、10～11点：可、9点未満：不可

履修条件

- ・学生を大事にする大学づくりを考えている方を歓迎します。

・学習支援、授業評価アンケート、ファカルティ・ディベロプメント(F D)、スタッフディベロプメント(S D)、初年次教育、教育・学習ガイドライン策定などに関心のある方を歓迎します。

注意事項

・この授業では、オンライン授業支援ツール『ゴーイングシラバス』を活用しますので、インターネット環境が必要です。とくにリーディングのコメント、課題の提出、授業記録で活用します。

・『ゴーイングシラバス』は学外からもアクセス可能です。2005 年度、水曜 7 限で検索してください。 <http://gs.cshe.nagoya-u.ac.jp/>

授業計画

10月5日

自己紹介

この授業の進め方

シラバスの説明（成績評価、予習教材など）

最終成果の説明

ゴーイングシラバスの説明

10月12日

パート1：現代の大学生の学習状況と学習意識

基本レクチャー

* 現代の大学生の学習意識はどうなっているか？

・望ましい授業評価アンケートとは？ 次の文献を読んで、前日までに各 200 字前後のコメントをみんなの部屋に書き込んでください。

近田政博(2005)、 河合塾(2003)

10月19日

パート1：現代の大学生の学習状況と学習意識

自分の大学について調査・発表 自大学の学生の学習状況と学習意識について調査し、その実情と問題点を A 4 用紙で 2 枚以内にまとめ、授業の前日までにみんなの部屋にアップしてください。

10月26日

パート1：現代の大学生の学習状況と学習意識

改善策を意見交換 自大学の学生の学習状況と学習意識の把握方法・内容について、改善策を A 4 用紙 1 枚にまとめ、授業の前日までにみんなの部屋にアップしてください。

11月2日

パート2：学生に対する学習支援

基本レクチャー

* 学習支援がこれまで定着しなかった理由

* 初年次教育はなぜ重要なのか？

* 日本の初年次教育の特徴は？ 次の文献を読んで、前日までに各 200 字前後のコメントをみんなの部屋に書き込んでください。

大山泰宏(2003)、 近田政博(2004)

11月9日

パート2：学生に対する学習支援

自分の大学について調査・発表

自大学の学習支援の方法・内容について調査し、その実情と問題点を A 4 用紙 2 枚以内にまとめ、授業の前日までにみんなの部屋にアップしてください。

11月16日

ゲストスピーカー：山本以和子氏（ベネッセコーポレーション）

テーマ：大学入学生像と初年次教育の設計（18時半～20時半）

（6限目の中井助教授の授業と合同でやります。）山本氏のテーマに関連した文献を後日配布しますので、当日までに目を通してきて下さい。

11月30日

パート2：学生に対する学習支援

改善策を意見交換 自大学の学習支援の方法・内容について、改善策を A 4 用紙 1 枚にまとめ、授業の前日までにみんなの部屋にアップしてください。

12月7日

パート3：教職員に対する研修活動

基本レクチャー

* F D や S D の本来の目的は何か？

* F D や S D を成功させる秘訣は？ 次の文献を読んで、前日までに各 200 字前後のコメントをみんなの部屋に書き込んでください。

田中每実(2003)、 金子元久(2005)

12月14日

パート3：教職員に対する研修活動

自分の大学について調査・発表

自大学の F D および S D の方法・内容について調査し、その実情と問題点を A 4 用紙 2 枚以内にまとめ、授業の前日までにみんなの部屋にアップしてください。

12月21日

ゲストスピーカー：溝上慎一氏（京都大学高等教育研究開発推進センター助教授）

（6限目の中井助教授の授業と合同でやります。）溝上氏のテーマに関連した文献を後日配布しますので、当日までに目を通してきて下さい。

1月11日

パート3：教職員に対する研修活動

改善策を意見交換 自大学の F D および S D の方法・内容について、改善策を A 4 用紙 1 枚にまとめ、授業の前日までにみんなの部屋にアップしてください。

1月18日

パート4：自分の大学の教育・学習ガイドラインを作成する

基本レクチャー

*なぜガイドラインが重要なのか？

*ガイドラインを作成するときに留意すべきことは何か？

次の文献を読んで、前日までに各200字前後のコメントをみんなの部屋に書き込んでください。

近田政博(2005)、 The University of Melbourne(2002)

1月25日

パート4：自分の大学の教育・学習ガイドラインを作成する

自分の大学について調査・発表 自大学の教育・学習ガイドラインの原案を作成し、授業の前日までにみんなの部屋にアップしてください。

2月1日

パート4：自分の大学の教育・学習ガイドラインを作成する

改善策を意見交換 自大学の教育・学習ガイドラインの修正版を作成し、授業の前日までにみんなの部屋にアップしてください。

この授業で扱う教材の出典

ゴシック体はコメント作成を必要とする文献

パート1 現代の大学生の学習状況・学習意識

- 近田政博(2005)「学生は何を求めているか」特色 GP シリーズ 『第1回ランチタイムFDの実践記録』名古屋大学高等教育研究センター、89-105 頁
- 河合塾(2003)『「学生による授業評価」事例研究会』19-21, 88-104 頁
- 竹内洋(2005)「歴史のなかの学生文化」『IDE 現代の高等教育』No.473、7-13 頁
- 武内清(2005)「学修と生活のバランス」『IDE 現代の高等教育』No.473、13-17 頁
- 溝上慎一(2005)「大学新入生の学業生活への参入過程 - 学業意欲と授業意欲」『京都大学高等教育研究』第10号、67-87 頁

パート2 学生に対する学習支援

- 大山泰宏(2003)「学生支援論」京都大学高等教育研究開発推進センター編『大学教育学』培風館、135-151 頁
- 近田政博(2004)「初年次教育の実施状況とそのマネジメントに関する日米比較」『大学教育学会誌』第26巻第1号、44-49 頁
- 佐藤浩章(2005)「学生支援策としてのピア・エデュケーションの可能性」『IDE 現代の高等教育』No.473、27-31 頁
- 濱名篤(2003)「一年次教育の社会的背景と特徴 - アメリカにおける学業継続率と動機づけ」『高等教育研究叢書』No.4、99-121 頁

パート3 教職員に対する研修活動

- 田中每実(2003)「ファカルティ・ディベロップメント論 - 大学教育主体の相互形成」『大学教育学』培風館、87-106 頁
- 金子元久(2005)「大学のスタッフディベロップメント - 必要性和可能性 - 」『IDE 現代の高等教育』469号、11-17 頁
- 山本眞一(2005)「大学職員の高度化の必要性」『IDE 現代の高等教育』469号、18-22 頁
- 近田政博(2005)「授業改善の取り組みをどう組織化するか」日本私立大学連盟ワークショップ(2005年8月4日)発表資料
- 福留(宮村)留理子(2004)「大学職員の役割と能力形成 - 私立大学職員調査を手がかりとして - 」日本高等教育学会編『高等教育研究』第7集、157-175 頁

パート4 自大学の教育・学習ガイドラインを作成する

- 近田政博(2005)「FDの目指す方向をどう設定するか」大学コンソーシアム京都FDフォーラム(2005年3月6日)での発表記録
- The University of Melbourne (2002), *Nine Principles Guiding Teaching and Learning in The University of Melbourne: The framework for a first-class teaching and learning environment.*
- The University of Sydney (2001), *Guidelines for Good Practice in Teaching & Learning.*

もっと調べてみたくなったら

パート1 現代の大学生の学習状況・学習意識

- ・名古屋大学高等教育研究センター編(2005)『初年次オリエンテーションを支援するスタディ・ティップスの開発と活用に関する事業』成果報告書(非売品)
- ・ベネッセ教育総研(2005)『学生満足度と大学教育の問題点 2004年度版』(非売品)
- ・全国大学生生活協同組合連合会(2005)『Campus Life Data 2004:第40回学生の消費生活に関する実態調査(2004年10月実施)』(非売品)
- ・溝上慎一(2004)『現代大学生論 ユニバーシティ・ブルーの風に揺れる』NHK ブックス
- ・名古屋大学編(2003)『学生生活状況調査報告書』平成15年10月(非売品)
- ・河合塾(2003)『学生による授業評価 事例研究会』報告書 平成15年7月(非売品)

パート2 学生に対する学習支援

- ・E.T. Pascarella, P.T.Terenzini (2005), *How College Affect Students*, Jossey-Bass.
- ・『IDE 現代の高等教育』(2005) No.473 「現代の学生と生活」, 2005年9月号
- ・AERA MOOK(2004)『勉強のやり方がわかる。』朝日新聞社
- ・関西国際大学高等教育研究所(2003)『高等教育研究叢書』No.3 「一年次教育と学習支援」(非売品)
- ・N. J. Evans, D.S. Forney, F.Guido-Dibrito (1998), *Student Development in College*, Jossey-Bass.
- ・A.W.Chickering, Linda Reisser (1993), *Education and Identity*, Jossey-Bass.

パート3 教職員に対する研修活動

- ・文部科学省『大学における教育内容等の改革状況について』
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/17/03/05060902.htm
- ・名古屋大学高等教育研究センター編(2005)『ティップス先生からの7つの提案』(教員編、学生編、大学編) <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seven>
- ・名古屋大学高等教育研究センター編(2005)『特色 GP シリーズ 第1回ランチタイム FD の実践記録』(非売品)
- ・名古屋大学高等教育研究センター編(2005)『特色 GP シリーズ 実践的教授法の開発を目指して』(非売品)
- ・科学研究費補助金基盤研究(B)中間報告書(2005)『学生・教師の満足度を高めるためのFD組織化の方法論に関する調査研究』(研究代表者 夏目達也)(非売品)
- ・有本章(2005)『大学教授職とFD アメリカと日本』東信堂
- ・『IDE 現代の高等教育』(2005) No.469 「SD/大学職員の能力開発」, 2005年4月号
- ・『IDE 現代の高等教育』(2002) No.439 「大学のSD」, 2002年5-6月号
- ・E.L.ボイヤー(有本章訳)(1996)『大学教授職の使命』玉川大学出版部(原著 Scholarship Reconsidered: Priorities of the Professoriate の出版は1990年)

パート4 自大学の教育・学習ガイドラインを作成する

- ・ 中井俊樹・中島英博 (2005) 「優れた授業実践のための7つの原則とその実践手法」『名古屋高等教育研究』第5号、283-299頁
- ・ 中島英博・中井俊樹 (2005) 「優れた授業実践のための7つの原則に基づく学生用・教員用・大学用チェックリスト」『大学教育研究ジャーナル』第2号、71-80頁
- ・ 名古屋大学教養教育院(2005) 「全学教育の科目者へのガイドライン」『全学教育科目担当の手引』平成17年度、1頁(非売品)
- ・ The University of Melbourne (2002), *Nine Principles Guiding Teaching and Learning in The University of Melbourne: The framework for a first-class teaching and learning environment.*
<http://www.cshe.unimelb.edu.au/pdfs/9principles.pdf>
- ・ The University of Sydney (2001), *Guidelines for Good Practice in Teaching & Learning.*
http://fmweb01.ucc.usyd.edu.au/FMPro?-db=POL_Main.fp5&-lay=www&-format=/pol/pol_summary.html&DocID=393&-find

ワークシート

大学の教育・学習の指針

氏名 _____

指針 1

実現するための方法

・
・
・

関係する組織、プログラム、リソース

・
・
・

指針 2

実現するための方法

・
・
・

関係する組織、プログラム、リソース

・
・
・

最終成果のサンプル(昨年度の例)

大学の教育・学習の指針

氏名 _____

指針 1 学問的期待と基準を明確にしよう。

実現するための方法 学生が学問の面白さがわかる授業に出会える

- ・シラバスに次の項目を確実に掲載し、実行すること
 - 学習成果につながる科目目標について明確な説明を学生にすること
 - 受講によって獲得されるスキルについての明確な説明を学生にすること
 - 成績評価基準については明確な説明を学生にすること
 - 授業内容は一貫した方法と適切な水準で提供されること
 - 授業目的と評価基準に沿って学習経験が行われること。
 - 授業は学生が効果的に学習できるように構成されること

関係する組織、プログラム、リソース

- ・ 各学部教員、教務委員会、学務センター委員会、大学教育開発研究センター
- ・ シラバス

指針 2 知的刺激を感じる授業を展開しよう。

実現するための方法 学生がやりがいのある授業が沢山あって楽しい

学生たちにそれぞれの学習の意義を理解させるためにも、知識をより幅広い文脈の中で(知的、社会的、政治的、歴史的)提供する。

学習と経験を関連付けさせるような教育を行うことによって、学生の学習意欲を高めること。

思考、理論、概念に基づいて研究課題を練って発表すること。

相反する理論やアプローチをディスカッションやディベートを促進するために授業に取り入れること。

教員は学習に対する情熱を与え、学生の好奇心を触発すること。

関係する組織、プログラム、リソース

- ・ 各学部教員、教務委員会、学務センター委員会、大学教育開発研究センター
- ・ シラバス

指針3 学習者個人の発達に関心を持ち、支援をしよう。

実現するための方法 学生一人一人の能力、ニーズに応じて学ぶことができるよう配慮

学生は固有の才能、願望、関心を持つ個人として扱われること。

教員は、カリキュラム・授業空間・学習資源などにおいて、学生の多様な学習スタイルやアプローチを可能な限り、受け入れようと努めること。

教員は学生が直面した問題や要求を親身に受け止め、学生が自分の戦略を発展させていけるように適切な援助や支援を個人に提供すること。

学生が個別に教員に相談できる機会を提供すること。

関係する組織、プログラム、リソース

- ・ 各学部教員、教務委員会、学務センター委員会、大学教育開発研究センター
- ・ オフィスアワー

指針4 適応性のあるカリキュラムを作り上げよう。

実現するための方法 学生が将来的に役に立つ授業を作る

大学とその構成要素(教員、学校、学科)は大学のステイクホルダー(卒業者の雇用者、専門職、政府、卒業者、学生などの関係者)と定期的に相談する仕組みと方法を維持しつづけること。

ステイクホルダーの反応をみながら、定期的にかリキュラムを見直す仕組みが存在すること

大学の授業が卒業生にとって適切な知識やスキルを提供しているかどうかを確かめるために、卒業生の成果及び他の指標を測定すること。

関係する組織、プログラム、リソース

- ・ 各学部教員、教務委員会、学務センター委員会、大学教育開発研究センター
- ・ キャリアセンター、エクステンションセンター、校友会・同窓会、
- ・ カリキュラム

指針5 実効・フィードバック・評価のサイクルを学んでもらおう。

実現するための方法 学生が大学での勉強は満足するものばかり

学生は安心して意見を表明できる環境のもとで学習できること。

学生には教員だけでなく学生同士でフィードバックできる機会が提供されること。

提出課題のフィードバックは定期的に、迅速に、適切なタイミングで行われること。

学生には自分自身の学習を検証し、見直す方法が教えられること。

学生が早い段階でのフィードバックと定期的な自己検証が行えるように授業が設計されること。

関係する組織、プログラム、リソース

- ・ 各学部教員、教務委員会、学務センター委員会、大学教育開発研究センター、
- ・ 情報センター、図書館
- ・ シラバス

指針6 最新の研究成果をあらゆる教育・学習活動に浸透させよう。

実現するための方法 - 学生が授業で学ぶことは最先端ばかり -

最新の研究とコンサルタント経験を授業内容・方法に取り入れること。

学生に特定分野における学門の伝統・知の発展の歴史・現在の知識体系を気づかせること。

教員は専門分野の最新の発展状況に遅れを取らず、その知識を授業に取り入れていくこと。

関係する組織、プログラム、リソース

- ・ 各学部教員、教務委員会、学務センター委員会、大学教育開発研究センター
- ・ シラバス

指針7 自分を見つめ学び直す機会を与えよう。

低年次生に実現するための方法 学生が進みたい職業分野が判る

四年間をどう過ごすかを学生にキチンと考えてもらう - 自己開発ノート「キャリアチャート」記入

大学で何を学ぶか - 卒業生や実社会で活躍する人を招いて講演会・パネルディスカッション

将来像のモデル提示 - 様々な職業モデルの提示と卒業後 5 年以内のOB・OGによる就職後役に立った学生時代の勉強・働くことの楽しさ講演

ブラッシュアップのためのプログラム - 正課のカリキュラムの他に資格取得のエクステンション講座や留学など

インターンシップガイダンス / キャリアガイダンス - 二年次生から始める。

関係する組織、プログラム、リソース

- ・ 各学部教員、教務委員会、学務センター委員会、大学教育開発研究センター
- ・ キャリアセンター、エクステンションセンター

指針8 スチューデント・ライフのエンジョイを支援しよう。

実現するための方法 学生が大学生活は自分に合っていると実感する

課外活動への参加の推進

ボランティア活動への参加の推進

学内でくつろげる場所(ラウンジなど)を多く設ける

関係する組織、プログラム、リソース

- ・ 各学部教員、教務委員会、学務センター委員会、大学教育開発研究センター
- ・ 施設部